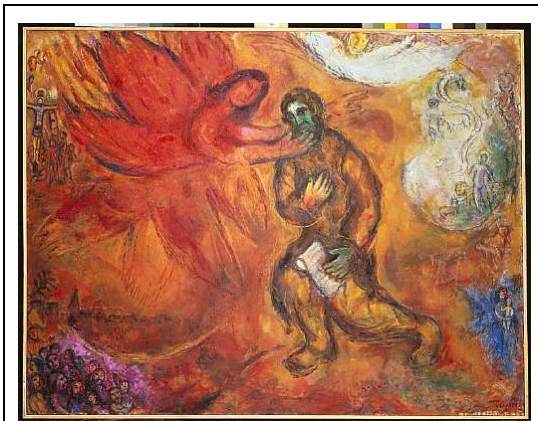


ウジヤ王は勢力、名声を得ていたものの傲慢になり、晩年は重い皮膚病に侵され、隔離された家に住まざるを得ませんでした。子ヨタムが摂政となり、父ウジヤの政策を忠実に踏襲し、正しいことを行つたとあります。特に神殿に入ることはしなかった(歴代下 27:2)とありますので、信仰を求める気持ちはなかったでしょう。わたしは若者を支配者にした。気ままなものが国を収めるようになる(2;3)とあります。また、わたしの民は、幼子に追い使われ 女に支配されている(3:12)とあるのはこのあたりへのイザヤの不満でしょうか。イザヤはエルサレムの状況を次のように記しています

主は言われる。シオンの娘らは高慢で、首を伸ばして歩く。流し目を使い、気取って小股で歩き/足首の飾りを鳴らしている。主はシオンの娘らの頭をかさぶたで覆い/彼女らの額をあらわにされるであろう。その日には、主は飾られた美しさを奪われる。足首の飾り、額の飾り、三日月形の飾り、耳輪、腕輪、ベール、頭飾り、すね飾り、飾り帯、匂袋、お守り、指輪、鼻輪、晴れ着、肩掛け、スカーフ、手提げ袋、紗の衣、亜麻布の肌着、ターバン、ストールなどを。芳香は悪臭となり、帯は縄に変わり/編んだ髪はそり落とされ/晴れ着は粗布に変わり/美しさは恥に変わる。シオンの男らは剣に倒れ/勇士は戦いに倒れる。シオンの城門は嘆き悲しみ/奪い尽くされて、彼女は地に座る。(3:16) 女性の装飾についてもイザヤは徹底的に観察し、知り尽くしています。見せかけの美しさは虚しく、役立たずだと見なし、エルサレムを虚栄だけの弱い女のように見なし、断罪しているのです。



イザヤ シャガール

ウジヤ王が死んだ年、イザヤが神殿で一人祈っていた時、天の御座に主が座して、その衣が神殿を満たし、セラフィムの賛美の交唱を聞き、神殿が揺れ動くのを見聞きしたのです。「災いだ。わたしは滅ぼされる。わたしは汚れた唇の者。汚れた唇の民の中に住む者。しかも、わたしの目は/王なる万軍の主を仰ぎ見た。」(6:5)と、人間の罪を重く、鋭く受け止め、裁きを信じるイザヤは非常に畏れました。するとセラフィムの一人が、手に祭壇から火鉢で取った炭火を取って、イザヤの口に火を触れさせて言いました。「見よ、これがあなたの唇に触れたので/あなたの咎は取り去られ、罪は赦された。」(6:7)

火は神の裁きの徴であると同時に神の愛の働きの徴です。イザヤは そのとき、わたしは主の御声を聞いた。「誰を遣わすべし。誰が我々に代わって行くだろうか。」わたしは言った。「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。」と即座に応答しました。イザヤには、自分の能力、資格、適性、人の評判など、神の言葉の前では意味がありませんでした。神の前に自分が立たされている、神の言葉に従うということしか考えられなかったのです。主は言われた。「行け、この民に言うがよい/よく聞け、しかし理解するな/よく見よ、しかし悟るな、と。この民の心をかたくなにし/耳を鈍く、目を暗くせよ。目で見ることなく、耳で聞くことなく/その心で理解することなく/悔い改めていやされることのないために。」

神はイザヤに、「神の言葉を語れ」、しかし「民は頑固で神の言葉を悟らず、悔い改めない」と語りました。要するに徒勞に終わる使命を与えました。これではやりがいがないというものです。そのような使命に誰が耐えられるでしょう。「主よ、いつまででしょうか。」主は答えられた。「町々が崩れ去って、住む者もなく/家々には人影もなく/大地が荒廃して崩れ去るときまで。」(6:11)との使命の任期も、絶望的状况になるまでと告げられますから、誰が耐えられるでしょう。けれども、イザヤはそれを受け入れました。遠くの、見捨てられた所、焼き尽くされた所でも、切り倒された木にも、切り株が残る。神が切り倒し、それでも残されたものがあれば、それは神が残したものである。それは聖なるものである、という信仰をイザヤは与えられました。遠くでも、見捨てられた所でも、滅ぼされたような所でも、神の残されたものがあるから、そこへ遣わされていこうとイザヤは願ったに違いありません。